

第2回伊万里市立学校規模適正化協議会会議録

1 日 時 令和2年11月12日(木)
開会 14時00分
閉会 16時00分

2 場 所 伊万里市民図書館 ホール

3 出 席 20名

4 欠 席 6名

No.	氏 名	出席	No.	氏 名	出席	No.	氏 名	出席
1	上野 景三	欠	10	木寺 智子	○	19	清水 正彰	欠
2	墨谷 誠一	○	11	小杉 道久	○	20	黒川 敦子	○
3	吉永 浩伸	○	12	達 信子	○	21	田中 健一	○
4	坂本 和人	○	13	掛園 真樹	○	22	岩永 孝雄	○
5	前田 勉	○	14	石井 司朗	欠	23	森 俊介	○
6	西 靖幸	○	15	松尾 哲司	○	24	松尾 正司	○
7	堀田 広隆	○	16	田中 啓三	欠	25	松本 啓二	○
8	鍛冶 未華	欠	17	福地 佳野	○	26	松本 壽雄	○
9	井手 幸江	○	18	口石 さおり	欠			

議事録署名者 21番 田中 健一

23番 森 俊介

5 事務局

職 名	氏 名	職 名	氏 名
教 育 長	松 本 定	教 育 部 長	多 久 島 功
教 育 副 部 長	梶 原 貴 英	学 校 教 育 課 長	中 尾 聡 彦
建 設 農 林 水 産 部 施 設 営 繕 課 長	吉 永 大 輔	学 校 教 育 課 指 導 主 事	古 賀 美 和
学 校 教 育 課 係 長	内 山 直 樹	学 校 教 育 課 事 務 職 員	杵 嶋 孝 太

6 その他出席者

- ・伊万里市立牧島小学校 校長 羽田野 修
- ・伊万里市立山代西小学校 校長 出雲 令子
- ・伊万里市立東陵中学校 校長 元山 雅彦

7 協議事項

(1)	「義務教育学校」について
(2)	東陵中学校区の現状について
(3)	複式学級を有する学校の現状について
(4)	グループ協議

8 報告

滝野校について

9 その他

次回開催予定 令和3年2月下旬

<p>事務局 (学校教育課長)</p>	<p>みなさんこんにちは。</p> <p>定刻になりましたので、令和2年度第2回伊万里市立学校規模適正化協議会を開催したいと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>まず、今回から協議の対象となる学校の校長先生をご紹介します。</p> <p>東陵中学校区の学校を代表して、東陵中学校の元山校長先生、複式学級を有する学校を代表して、牧島小学校の羽田野校長先生、山代西小学校の出雲校長先生に出席していただいております。</p> <p>よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、協議会会長の小杉会長からご挨拶をいただきます。</p>
<p>会長</p>	<p>みなさんこんにちは。</p> <p>本日は大変お忙しい中に、本協議会にご出席をいただきましてありがとうございます。</p> <p>前回の令和2年度第1回協議会を8月7日に開催いたしました。その後、各団体のいろいろな協議会の中でも話題として取り上げられたところもあるかと思えます。その中で出された様々なご意見も、本日の協議会でも出していただきながら、諮問事項についての継続審議をお願いしたいと思います。</p> <p>まず、レジュメの3、議事録と議事録署名者について確認いたします。</p> <p>前回の第1回協議会の議事録については、みなさんのお手元に事務局より配布していただいております。ご確認ください。</p> <p>また、今回の議事録署名については、分離統合中学校代表の森 俊介様と田中 健一様をお願いしたいと思いますが、みなさまよろしいでしょうか。</p> <p>(賛同の声)</p> <p>それでは、森様と田中様、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、前回の協議内容について確認を行いたいと思います。</p> <p>前回の協議会においては、諮問事項や昨年度の審議の経緯を確認しました。そして、企画政策課より「公共施設の再配置について」提案をいただきま</p>

	<p>した。その後、南波多郷学館前校長の吉牟田先生より、「義務教育学校」について、具体的な取り組みと成果をお話いただきました。</p> <p>これらを受けて、事務局の方から、周辺部については統合により、義務教育学校としていくことを現段階での1つの方向性とすることを確認し、「東陵中学校区の3校、東陵中学校、大川小学校、松浦小学校を統合し、義務教育学校とする」、「牧島小学校、山代西小学校の複式解消の方策」の2点について、今後の協議を進めていくということだったと思います。</p> <p>それでは、レジュメに即して(1)「義務教育学校」について、学校教育課の方からお話をさせていただきますが、前回の協議会の中で、「周辺部については、統合により義務教育学校とする」と提案があったところです。</p> <p>現在、市内には南波多郷学館がありますが、その定義について、事務局に説明をしていただき、共通理解を図りたいと思っております。</p> <p>それでは、事務局より説明をお願いします。</p>
<p>事務局 (学校教育課長)</p>	<p>義務教育学校について説明させていただきます。</p> <p>伊万里市教育委員会では、平成30年度より、県内でもモデル的に小中連携教育に取り組んでこられた現在の南波多郷学館を施設一体型の義務教育学校として校舎を整備し、さらなる小中一貫教育の推進を図ることとしました。</p> <p>義務教育学校と言いますのは、1人の校長のもと、1つの教職員の組織です。そして、義務教育9か年の義務教育目標を設定して教育活動にあたっていきます。9年間の系統性を確保した教育課程を整備していくというものです。</p> <p>義務教育学校でできることとしては、新教科の増設です。例えば、全国の例で見ると、ふるさとについて学ぶ『ふるさと科』、国際社会への理解を深める『国際科』などがあります。</p> <p>それから、学年段階、学校段階での指導内容の入れ替えなど特例を認めることができるなど、柔軟な教育課程の編成が可能となります。</p> <p>義務教育学校のメリットとしては、施設一体型となれば、9年生までの児童生徒の情報を共有しながら教育にあたることができます。また、将来的</p>

	<p>には、小中学校両方の教員免許状を有した教員を配置し、学習内容の前倒しや指導内容の入れ替え、1年生から9年生までの一貫した生徒指導を行うことができます。また、5年生、6年生では外国語活動や音楽、図工、美術など、教科によっては教科担任制の導入など、小中一貫校では難しい教育活動を展開することができます。</p> <p>一方では、小学校卒業の達成感の喪失、リーダーシップや自主性を養う機会が失われることが一般的にデメリットとして挙げられますが、これに関しては、新しい学校の在り方として私たちも意識を変えていく必要があると思いますし、デメリットであれば、工夫をしながら解消していく必要があると思います。</p> <p>そこで、伊万里市教育委員会の考え方ですが、少子化に伴う学校の小規模化が進む中、魅力ある学校づくりを進めるために児童生徒の規模の確保、それから活発な異学年交流を行うとともに、コミュニティスクールを推進するなど、地域住民や保護者と学校経営ビジョンを共有しながら、理解と協力を得ながら、学校教育を進めていくことが重要であると考えております。</p> <p>このようなことから、小中学校を統合する際は、小中一貫校をさらに発展させることができる義務教育学校の導入を伊万里市教育委員会の方針として持っております。</p> <p>参考までに、県内では伊万里市の南波多郷学館、多久市の東原産舎中央校、東部校、西溪校、玄海町の玄海みらい学園、大町町の大町ひじり学園が義務教育学校として存在しているところです。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>会長</p>	<p>何かご意見等がありましたらお願いしたいと思います。</p>
<p>森委員</p>	<p>義務教育学校についてではなく、学校規模適正化協議会についての質問です。</p> <p>本来、学校規模適正化協議会では、規模適正化の中身、学年ごとの人数の適正化を話すべきではないかと思います。12学級以上18学級以下が適正という一つのラインがあって、そこに向けての規模適正化を考えるとい</p>

	<p>うのがこの場だと思います。</p> <p>もちろん義務教育学校を否定していることではなく、最終的に義務教育学校にするしかないという意見は出てくるとは思います。あくまでも、まずは学年に複数の学級を有する学校をどうつくるかという議論が必要ではないかと思います。</p> <p>私の子供もいわゆる少人数学校に通わせていましたが、学年あたりの子供たちが少ないことでの悩みが非常に大きかったです。競争性がないとか、部活動の選択肢が少ないとかですね。</p> <p>そういう学校に通わせた親としては、まずはそういう規模適正化の議論がほしいと常に思っています。</p> <p>なので、中学校区の問題だと限定されてしまうと、選択肢が無くなってしまいます。将来的には南波多との統合も視野に入れてはなっていますが、子供の人数の推移を見ますと、統合しても理想の学校規模にはならないですよね。</p> <p>青嶺中学校区までの統合を考えていかなければいけないようになってくるという話になってきますが、伊万里市全体のことを踏まえて考えていきたいと思っています。</p>
会長	<p>他にご意見などございませんでしょうか。</p> <p>なければ、私のほうから恐縮ですが、周辺部は義務教育学校、中心部は小学校、中学校となると、学校の横のつながりがなくなる、例えば中体連などありますが、その辺で不都合などは起きないのでしょうか。</p>
事務局 (学校教育課長)	<p>調整をしていかなければいけない部分は出てくるかだと思います。</p> <p>中心部はなぜ義務教育学校にしないかという、義務教育学校についても、学校規模があまりにも大きくなると義務教育学校の良さが出しにくくなるという側面もございます。</p> <p>いろいろな面を含めて現在検討しており、森委員さんと会長の意見をはじめ、この場でみなさんからの様々なご意見を賜りながら検討させていただきたいと思っています。</p>
会長	<p>他に何かございませんでしょうか。</p>

西委員	<p>市連Pの西といいます。</p> <p>私が感じる伊万里の状況は、市街地に一極集中していると思います。</p> <p>資料にも、各校区の児童生徒数がありますが、伊万里中学校区、啓成中学校区に偏っているので、周辺部の義務教育学校化も仕方ないと思います。</p> <p>しかし、先だって政策経営部から市のグランドデザインということで、コンパクトシティを目指すなかで、中心地から周辺部へ向けて人の流れを矢印で示してあったかと思いますが、市の考えでいくと、仕方ないと思わざるを得ません。</p> <p>しかし、まちづくりやまちおこし、福祉の観点から行くと、地域共生社会の実現というなかにおいては、町ごとに学校や病院、コミュニティセンターが必要ななかで、学校を統合するということは、政策経営部と教育委員会でのグランドデザインの在り方の協議、すり合わせが必要だと感じております。以上です。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>他に何かございませんでしょうか。</p> <p>義務教育学校となってくると、小学校の免許と中学校の免許両方を持っている人を配置されるようになると思いますが、両方持っている方は現時点でどの程度いらっしゃるのでしょうか。</p>
事務局 (学校教育課長)	<p>はっきりとした数は言えませんが、教員養成のシステムを考えると、小中両方の免許状を取れるように、佐賀大学の方もシステムを組んであります。</p> <p>ですので、これから少しずつ増えてくると思います。</p>
会長	<p>国も義務教育学校を推奨しているわけですので、教員免許状の取得についても少し変わってきているという話でございました。</p> <p>次に進みたいと思います。</p> <p>(2) 東陵中学校区の現状についてということで、東陵中学校と大川小学校、松浦小学校を統合し義務教育学校とする案が示されましたが、代表して大川小学校の墨谷校長先生にお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。</p>
墨谷委員	<p>大川小学校の墨谷と申します。</p>

私からは、学校規模適正化に係る東陵中学校区の現状についてお話いたします。

東陵中学校区の課題としましては、2つ挙げられます。

1つは校舎の老朽化、2つ目は今後の児童生徒数の減少です。

1つ目の校舎の老朽化について説明いたします。

大川小学校は令和3年度で創立150周年を迎える歴史ある学校でございます。

校舎は昭和44年に建設されており、今年度築52年を迎えております。

築52年ともなりますと、校舎の至る所が老朽化で傷んでおります。

過去10年間の修理、工事等を挙げておりますが、どれも簡単な修理ではありませんでした。工事によってはある程度の期間と費用を要しているようです。

修理や工事にあたっては、児童の授業に支障のない夏休みなど休日に行われておりますが、急を要するものについては休日を待つことはできないため、課業日に行われたこともあります。その場合、一時的な停電や水道が止まるなど、学校生活に影響がある場合もありました。

昨年度の例ですが、老朽化した水道管が急に破裂し、工事のために元栓を閉める必要がありました。元栓を閉めると、手洗い場や水洗トイレが使用できなくなるため、元栓を閉める前に水を溜める必要があり、休み時間などを使って作業を行いました。また、この時はバケツに溜めた水をトイレタンクに入れて使用していましたが、低学年の児童にとっては非常に水が重いため、職員が毎回付き添う必要がありましたので、近くの大川コミュニティセンターを借りるなどしておりました。

他にもこちらは壁や天井がはがれているもので、中の鉄筋が見えているのがわかるかと思えます。

これはコンクリートに亀裂が入っている状況です。このような亀裂は校舎の至る所に見受けられます。

他にも板張りの天井から雨漏りをしているところもあります。

このような状況がありまして、天井から雨漏りをして、教室の机や床が濡

れてしまう状況がありました。

平成27年4月には、児童に渡す前の新しい教科書が雨漏りで濡れてしまい使えない状況になりました。

雨漏りが発生した際は教育委員会に連絡して、すぐに対応していただいています。

昨年度の夏休みには、雨漏り防止のため、屋上をコーティングする工事をしていただき、現在は教室での雨漏りはなくなっている状況です。

ただ、校舎の老朽化は年々進んでいますので、今後新たな施設上の課題も出てくるのではないかと考えているところです。

次に、松浦小学校の状況です。

松浦小学校は令和4年度に創立150周年を迎える学校です。

校舎は昭和36年に建設されており、今年度で築60年目を迎えております。

それだけ古い校舎でしたので、老朽化により衛生面でも問題が多かったトイレについて、平成30年度に改修工事が行われました。

それ以外の状況ですが、特に教室棟の廊下の壁があちらこちらで崩れかけられているところが見受けられます。

窓枠のコンクリートや漆喰の老朽化も目立ち、安全面にも問題があり、窓の開閉ができないところもあるようです。

廊下や体育館の天井も雨漏りの影響があって剥がれたり、破損したりしている箇所が見受けられます。

松浦小学校においても、施設の安全な管理については教育委員会と連携を取りながら改善に努められておりますが、老朽化が更に進んだ場合は、大川小学校と同じく課題がたくさん出てくるのではないかと思います。

これまで大川小学校と松浦小学校の校舎の老朽化について説明いたしましたが、両校ともに豊かな自然に囲まれた魅力ある学校です。

大川小学校の校庭には、大きな楠の木とセンダンの木があります。暑い夏の日でも、大きな涼しい木陰を作ってくれ、周りで遊ぶ子供たちの姿を見ますと、子供たちがすくすくと成長してくれていることを感じるところで

す。

松浦小学校には石の階段があり、春には桜のトンネルが美しく、子供たちの登校を迎えてくれます。また、運動場には大きな楠の木が3本並んで立ち、子供たちの元気な姿を見守ってくれています。運動会の際は大きな木陰がテント代わりになってくれます。

このように両校ともに、児童たちは校舎に愛着を持ち、のびのびと成長しており、保護者や地域の方にとっても、学校は長年心のよりどころとなっていることだと思います。

2つ目の児童生徒数の減少について説明いたします。

前回の本協議会の資料にもございましたが、東陵中学校区の今後の児童生徒数は減少の傾向にあります。

大川小学校は現在118名ですが、3年後の令和5年度には100名を切り、6年後の令和8年度になると69名まで減少し、今より49名減少することになります。

松浦小学校も今年度は108名ですが、3年後には100名を切り、令和8年度になると84名まで減少することになっています。

前回の本協議会の資料の中に、小規模校のメリット・デメリットが示されていました。

小規模校のメリットとしては、個に応じたきめ細かな指導が可能、個々の活躍の場が多く設定できる、児童と担任の結びつきが強い、柔軟な学習形態がとれる、異年齢との関係が築きやすい、地域の人との結びつきが強い、地域に根差した教育を推進しやすいなどが挙げられます。

デメリットは、メリットで挙げたことの逆のことになりますが、互いに学び合う経験が少ない、競争心や向上心が育ちにくい、社会性を醸成する場が設定しづらい、新たな人間関係が作りにくい、多様なものの考え方に触れる機会が少ない、人間関係が崩れた時に改善修復が困難である、職員数が少なく多忙となる場合があるといったことが挙げられます。

大川小学校や松浦小学校の児童減少がさらに進み、学校がより小規模化した場合、これらのメリット・デメリットはより当てはまることになります。

もし、東陵中学校と両小学校が統合し義務教育学校となった場合、先ほど述べたメリットはデメリットとなり、デメリットがメリットに変わることになります。

しかし、大川小学校と松浦小学校の場合は、合併をしても互いに児童数は少ないため、1学年1学級という状況は変わらない可能性が高く、このメリット・デメリットがそのまま逆転するという状況にはならないのではないかと考えます。

実際に合併した場合を考えますと、東陵中学校区独自の要素が考えられます。

大川小学校と松浦小学校はほぼ同規模の学校ですので、互いに馴染みやすく、すぐに打ち解けられるのではないかと思います。

互いの学校規模に大きな差があった場合は、小さな集団が大きな集団の影響を強く受けてしまう可能性が考えられますが、両校はその可能性は低いと考えます。

次に環境面ですが、東陵中学校にも松浦川を中心に、自然に恵まれた環境があり、環境面でもスムーズに順応するものと思います。

また、毎年両校の6年生の交流会を行っていることや、松浦の剣道クラブに大川から多くの児童が参加している状況もあり、すでに互いのつながりがある状況です。

余談になりますが、修学旅行時のバスの料金も、均等割りの人数が増えるため各家庭の費用負担額が少なくなります。

デメリットとしては、互いに児童数が多くないため1学年1学級の可能性が高く、大きな集団の中で切磋琢磨していくという状況になるのは難しいと思います。

東陵中学校区を代表して学校の現状について校舎の老朽化、児童生徒数の減少の2つの視点でお話をさせていただきました。

校長として、東陵中学校区の統合について、賛成または反対のどちらの立場でもございませんが、松浦小学校の校長先生、東陵中学校の校長先生ともに願うのは、子供たちが安全に安心して学校に通うことができる、健や

	<p>かに成長することができることです。</p> <p>今後、保護者や地域の方の声を聞きながら協議が進められることと思いますが、何よりも子供を中心に据えてご審議いただければと思います。</p> <p>以上で説明を終わります。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>何かご質問等ありましたらお願いします。</p>
森委員	<p>町民のこのことについての様子についてです。</p> <p>今年度はなかなか町民が一堂に介する機会が少なくなってしまうと思いますが、自分が出席する会議ではこのことについてお伝えし続けてはいます。</p> <p>一言で言うと、非常に受け身で、関心が薄いという印象です。</p> <p>決して大げさに言っているわけではなく、直接反応があった方は3名です。</p> <p>学校のことを自分のこととして考えられない方が増えているのかなというところが危惧しているところです。</p> <p>150年の歴史のある学校がなくなるかもしれないことに関して、関心のある方がいないというのが驚きです。</p> <p>前回、南波多の義務教育学校のお話があって、その時に地域の教育力が非常に大事だというお話をされていて、自分もそうだと思います。</p> <p>これまでの南波多と滝野と今回の違うところは、日常的に校区の子供たちの教育に関して考える場がないところです。</p> <p>これまで答申があった校区は、みなさんが自分のこととして考えられた上で答申がでていて、今回はそこを作っていくところから始めないといけないと思います。</p> <p>今コミュニティスクールの動きが始まっていますので、タイミングとしては今かもしれないですが。</p> <p>同じ義務教育学校をつくっても、子供たちにとっては非常に良いことが多いと思いますが、学校というのは子供たちだけではなく、コミュニティにとってどうなのかということだと思います。町民たちもまちづくりに対する関心が低いですし、学校がまちづくりに関わっていくこと、町民が学校に関わっていくことがどんどん薄れていってしまっている状況で、統合す</p>

	<p>るとさらに学校が遠く感じてしまうことになります。</p> <p>町民から話が出たのが、「スクールバスはどうするのか」ということで、まずはそこを心配されました。</p> <p>そこはもちろん大事な問題ですが、スクールバスで朝一気にいなくなって、夕方帰ってくると。町の中に子供たちの姿が無くなっていくことをどう考えるのか。</p> <p>町から学校がなくなることにに関して関心が薄い、それが今の現状です。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>他に何かありませんでしょうか。</p> <p>両小学校とも校舎の老朽化が非常に進んでいることと、数年後には両小学校とも100名を切るということで、児童数の減少が非常に深刻な問題であるという認識です。</p> <p>それでは次に移りたいと思います。</p> <p>複式学級を有する学校の現状について、牧島小学校と山代西小学校がありますが、学校の現状について牧島小学校の羽田野校長先生からお話をお聞かせ願いたいと思います。</p> <p>それではよろしく申し上げます。</p>
羽田野校長	<p>牧島小学校の校長、羽田野と申します。</p> <p>今日は複式学級の現状と課題についてということで、現在、牧島小学校と山代西小学校で複式学級解消のためということで今回話題に上っているわけですが、本校と山代西小学校は地域性や学校規模、今後の児童数の減少様子なども大きく異なりますので、今回のお話は牧島小学校の話として聞いていただければと思っております。よろしく申し上げます。</p> <p>まず、複式学級についてですが、複式学級とは2以上の学年が1学級を編成して教育活動を行う学級である。人数は小学校で1学級16名、1年生を含む場合は8名、中学校で8名が上限ということです。ですから、16名以下の学級ということになります。</p> <p>複式学級の編成の形態ということで、大きく2つに分けられます。</p> <p>まず、完全複式学級です。これは低学年、中学年、高学年が単式学級を含</p>

まず、3つの複式学級で編成されている学級です。

次に、変則複式学級です。これは、低学年、中学年、高学年のいずれかをまたぐ、または欠学年があるために低学年と高学年で編成されている学級になります。

複式学級の指導についてです。

AB方式という方法があります。

学年目標が2学年、低学年、中学年、高学年に渡って実現するように示されている教科について、A年度B年度に分けて2学年が同じ内容を学習する方式です。

国語、生活、音楽、図工、家庭、体育、外国語、道徳、総合的な学習がこれに当たります。

社会、算数、理科については学年ごとに目標が定められておりますので、AB方式はできないこととなります。

次にわたり方式です。

2学年それぞれが同じ時間に各学年の内容を学習する方法です。

指導にあたっては、各学年に直接先生が指導する時間と自習させる時間とバランスを取りながら2学年に指導を行います。

本年度の本校の学級編成についてです。

本年度は2年生と3年生の複式学級を実施しておりますが、学級編成を検討する際に、2年生、3年生の複式学級と3年生、4年生の複式学級のどちらでも実施が可能でした。

2, 3年生で実施する場合は低学年と中学年をまたいでいますのでAB方式での実施はできません。

わたり方式については、2, 3年生の在籍人数が比較的多いです。同一教科による授業時数が異なるということで、わたり方式による授業も非常に困難になってきます。

あと、2, 3年生は年間の週の授業時数が違うということで、日によっては各学年の下校時間が変わるということで、一緒に帰りの会が行えないということになります。

次に3、4年生で実施する場合です。

A B方式を実施する場合、同じ中学年ですので履修する教科が同じです。それと、学年目標が算数、社会、理科を除いて同じです。ですから、実施ができるということになります。

わたり方式による授業については、同一教科における授業時数が同じということで実施が可能です。

ただ、2、3年生と同じで在籍人数が比較的多くなります。

基本方針として、担任など特定の教員に複式学級実施による負担が集中するのを避けるために、級外を含めた全教員による教育体制をつくるという前提のもと検討した結果、2年生と3年生で複式学級を実施することにしました。

牧島小学校の複式学級によるメリット・デメリットをお話させていただきます。

メリットは、担任学級以外の授業を担当することで、全職員で全児童を指導していくという意識が高まったのではないかと思います。

あと、外国語、体育、音楽、総合的な学習、生活科など教員にはそれぞれ得意分野があります。それぞれの得意分野を担当学級以外でも発揮することができることで、教育の質が高まるとともに、教員のモチベーションも高めることができたのではないかと思います。

それと、異学年の児童と学習する時間が増えることで縦のつながりを強化することができたと思います。

デメリットですが、A B方式の授業を実施することで、年間計画の作成や授業の準備など教員の負担が大きくなって、1人1人の児童と向き合う時間が十分取れなくなってくるのではないかと心配しているところです。

A B方式の授業を実施することで、転出入による未履修の問題が発生することもあります。

級外、教頭先生などの担当時数が増えます。担任の出張や年休時の補欠確保ができない状況が生まれるのではないかと思います。

また、全職員で対応していることや特別支援学級の児童が参加することな

どから、かなり複雑な授業計画になるため、各クラスの児童の実態に応じた授業展開が難しくなることが心配されています。

今のところ先生方に頑張っていただいてデメリットを最小限に食い止めて授業をしていただいているところです。

問題は来年度以降の複式学級になります。

令和3年度の学級編成の予定になりますが、2学級が複式になります。

2年生と3年生、4年生、5年生の2学級での複式学級の実施が予定されています。2学級とも低、中学年、中、高学年にまたがる変則複式学級になります。そして、複式学級としては人数が多くなります。

2、3年生が16人でギリギリの人数となります。それプラス特別支援学級の児童が2名おりますので、教科によっては18名の児童と一緒に勉強をする時間があるということです。

4、5年生についても全員で17名の児童数になります。

この場合、AB方式及びわたり方式による授業の実施は不可能となります。ということで、来年度についても、級外含めた全教員による協力体制をつくる前提のもと計画をしていきたいと思っています。

今、試験的に来年の検討を始めております。

各学年が合同で授業を行う時間が多くなります。

それぞれの教員の持ち時間が25時間から26時間になります。そして、今年度から外国語専科の先生に入っていただいております、5、6年生の外国語を指導していただいておりますが、来年度は3、4年生の外国語活動も受け持っていただく前提として計画しています。

そして、8時間受け持つために養護教諭に保健の授業を担当してもらうことも考えているところです。

教務が17時間の授業をすることが必要となってきます。教頭も14.5時間の授業を受け持たなければなりません。

これが実際に実施できるかどうかは今後検討が必要になってきます。

令和3年度に考えられる複式学級の課題としては、複式学級が2学級になることにより、デメリットがさらに大きくなるということです。

	<p>AB方式の授業が多くなることで、発達段階に応じた系統的な授業が難しくなります。3、4年生は発達段階が全然違います。特に4年生、5年生で大きく違ってきます。</p> <p>あとは転出入による未履修になる問題が発生しやすくなります。</p> <p>そしてメリットもデメリットになることが考えられます。</p> <p>教員が担任学級以外の授業を受け持つことで、担任学級の学級経営に専念できなくなる。あと、担任以外の教員の授業が多くなることで、学級や児童1人1人の実態に応じた指導が難しくなることが予想されます。</p> <p>また、他学年との合同授業が多くなり、学級としてのまとまりが弱くなっていくのではないかと心配しているところです。</p> <p>今後の児童数の動向についてですが、今後は微増することになっています。新築の家があちらこちらに増えてきております。</p> <p>インターチェンジが近くにできることで、今後もさらに増えるのではないかと、今後複式解消も期待できるのではと、思っているところです。</p> <p>地域の方にも情報収集ということで声を聞いているところですが、牧島地区というのは本瀬戸地区と木須西地区という異なる地区が1つとなって牧島地区を形成しています。</p> <p>したがって、「牧島地区は牧島小学校があることで成り立っているということで、小学校がなくなるということは牧島地区がなくなるということだ」という声が聞かれます。</p> <p>カブトガニなど活発な活動を行っているところですが、これは牧島地区があって成り立っている活動であって、そういう地域の活動が小学校がなくなることで少なくなっていくことが心配という声もよく聞かれるところです。</p> <p>以上になります。</p>
<p>会長</p>	<p>羽田野先生、ありがとうございました。</p> <p>何かご質問等がありましたらお願いいたします。</p>

西委員	<p>複式学級については、デメリットとなる点が多くあるのかなと思いました。特に2学級になったら、加配とか非常勤講師の配置のこともありますが、学力向上のためには教職員の質の向上・確保について心配があると思っています。</p> <p>私も子供を持つ親としては、学力、これが義務教育学校になることでどれほど維持されるのか。もしくは維持だけではなく、どれほど向上が見込まれるのかというところが気になります。</p> <p>そういった点を市教委や学校の校長先生からもう少しご意見を聞きたいと思ったところです。</p> <p>以上です。</p>
会長	<p>教育委員会の方から何かありますでしょうか。</p>
事務局 (学校教育課長)	<p>私たちの時代は、『何をどれだけ知っているか』をテスト等で問われていたと思います。</p> <p>現在、子供たちに求められているのは、もちろん『何を知っているか』ということもありますが、例えば『自分の考えをしっかり持ち、人と交流をしながら比較・検討し、自分の考えに立ち返り、それを発信する力』が今求められています。</p> <p>これを踏まえて考えると、やはり一定の学校の子供たちの集団規模が求められていると思います。</p> <p>牧島小学校では複式学級を抱えながら、先生方1人1人がこれらの力を身に付けさせようと、タブレット等も活用しながら随分努力されているところです。</p> <p>教育委員会としても支援をしていかなければいけないと考えているところです。</p>
会長	<p>他にございませんでしょうか。</p>
松尾哲委員	<p>区長会連合会から松尾です。</p> <p>これまでの全体的なことで意見を申し上げたいと思います。</p> <p>まず、大川小学校と松浦小学校の老朽化の問題ですが、これ教育委員会は前々から把握されていたのでしょうか。把握されているのであれば、あれ</p>

ほど酷くなる前に対応策が打てたのではないのでしょうか。

過去のこのような会議で話が上がっているはずですが。

わかっているながら対応できていないがゆえにあれほどの状況になったのではないかと感じます。

複式学級では先生が足りないと。足りないなら先生を採用すればいいでしょう。採用するためには財政の問題がありますよ。財政課もこの会議に入れたらどうですか。

それから施設の統廃合の問題になるので企画政策課も呼んで、現状を理解してもらわないと、教育委員会だけで話をしても、財政課、企画政策課は把握しにくいのではないかと思います。

この場でいろいろ議論されていますけれど、関係各課も入れた上で協議しないと、結局金がないと言われればそれで終わりですよ。

この辺ももう少し考えていただきたいと思います。

あと、つい最近の話ですが、平尾という地域がありますが、ここは大川内町平尾と立花町平尾があります。大川内郵便局の辺りです。

ここが、2棟16世帯の建物ができるということで、当然我々は大川内小校区に入るとおっしゃっていましたが、施主の方が、学校規模とかを考えると立花小か大坪小学校校区に入りたいということで、最終的には大坪小学校区ということになったわけです。

周辺部から中心部に人が流れてくる意識の根底には、大きい学校に通わせたいという意識が如実にあると思っています。

そういう意味でも、この会議を総合的に運営するためにも、教育委員会だけではなく、財政課や企画政策課も含めて話し合いをするべきだと思います。

<p>会長</p>	<p>貴重なご意見をありがとうございました。</p> <p>それでは、グループ討議の方に移らせていただきたいと思います。</p> <p>協議の柱として、「東陵中学校区の統合問題」、「複式学級の解消」についての協議ということでよろしく申し上げます。</p> <p>グループごとに座っていただいておりますので、グループごとに司会進行、記録、発表をお願いします。</p> <p>20分程度のご協議をお願いします。</p>
	<p>グループ協議</p>
<p>会長</p>	<p>それでは最初のグループから発表をお願いします。</p>
<p>グループ1</p>	<p>大川小と松浦小の老朽化問題についてです。</p> <p>「児童に差し障りがあれば対応しなければいけないのではないか。」</p> <p>「地域の力、学校への関心が一番大事である。」</p> <p>「校区内で議論し、学校への想いや考えを出し合うことが必要である。」</p> <p>「財政は厳しいだろうが、数年後まで大川小と松浦小の校舎が持つのか心配である。」</p> <p>「校舎をリフォームし、校区の縛りを緩和して対応できないか」</p> <p>「減価償却や耐震構造は大丈夫なのか」</p> <p>以上が老朽化についてです。</p> <p>複式学級に関しては、</p> <p>「複数学級を受け持つことは先生も大変だろうし、児童の学びの理解度も心配である。」</p> <p>「地域への理解はあるのだろうか。」</p> <p>「学校から地域への情報発信はされているのだろうか。」</p> <p>以上です。</p>
<p>グループ2</p>	<p>東陵中学校区の問題ですが、老朽化が相当進んでおり、児童はもちろん教職員の安全の確保も難しいのであれば、統合も仕方ないのではないかとこの意見がありました。</p> <p>それから、いずれ統合するにしても、小学校、中学校など1つの区切りは必要になるのではないかとこの意見もありました。</p>

	<p>続いて複式学級についてですが、解消する方向で進めるべきだと思いますが、解消のための人的な措置、財政措置等をしっかり考えていただけないだろうかという意見がでました。</p> <p>以上です。</p>
グループ 3	<p>東陵中校区について協議を行いました。</p> <p>地域関係者の関心が薄い印象があるということで、広報誌や館報などの媒体を通して情報開示が必要ではないかという意見がありました。</p> <p>また、統合したとしても、部活動の選択肢が増える見込みはないのではないかと、社会体育、スポーツクラブの在り方についても協議が必要ではないかという意見が出ています。以上です。</p>
グループ 4	<p>このグループは牧島小学校について話し合いました。</p> <p>現状では児童数が増えていく予定ですので、統合の必要はないのではないかと意見でした。</p> <p>また、先生を増やして対応できないだろうかという意見が出ております。</p> <p>地域を含めたPR活動をして、活気あるまちづくりをすることで人口の増加が見込まれるのではないかと意見も出ております。</p> <p>また、伊万里小学校と牧島小学校の児童数に大きな差があるように、もう少し学校区の分け方を工夫できないかという意見も挙げられております。</p> <p>本協議会の中で、各学校の先生方の意見を聞いていきたいと思いました。</p> <p>以上です。</p>
会長	<p>東陵中学校区の義務教育学校化については、両小学校の校舎の老朽化が大きい問題であろうかと思います。</p> <p>また、複式学級解消については、一般的にデメリットが多いということで、全国的には複式学級の解消のために統合が進んでいるだろうと思います。</p> <p>解消することによって学習はもちろんのこと、人間関係を学ぶことも大変重要なことだろうと思います。</p> <p>共に、地域の関心が薄いという発言もありましたように、地域にいろいろ情報発信をする必要があると感じたところです。</p> <p>これまでの意見を参考にして、第3回の協議会をもって一定の方向性を導</p>

	<p>き出したいと思っておりますが、協議会の今後のスケジュールについて事務局からお願いします。</p>
<p>事務局 (学校教育課長)</p>	<p>今後のスケジュールですが、本協議会については、今後の市立学校の在り方についても協議をしなければなりません。</p> <p>東陵中学校区、それから複式解消については、今日ご協議いただいたことを地域に持ち帰っていただき、第3回目の協議会で一定の方向性を見出すことができると考えております。</p> <p>その後、市内全体として考えなければならないというご意見もありましたので、その点について、来年度2回協議会を予定し、2回目に答申をいただくことができると考えておりますけれどもいかがでしょうか。</p>
<p>会長</p>	<p>よろしくご協力のほどお願いしたいと思います。</p> <p>それでは4番目の報告ということで、滝野校についてお願いいたします。</p>
<p>事務局 (学校教育課長)</p>	<p>滝野校について報告させていただきます。</p> <p>滝野校については今年1月24日に開催された本協議会において「滝野中学校は国見中学校と統合する。あわせて、滝野小学校は東山代小学校と統合する。」という答申をいただいたところです。</p> <p>その後、滝野校の教育を考える会と滝野地区説明会にそれぞれ2回出向き、保護者の方々や地域の方々のご意見等を伺ってまいりました。</p> <p>結果、統合時期については、令和4年4月1日です承を得ました。</p> <p>今後、11月27日に総合教育会議、そして12月3日の経営会議を経て、正式に決定することになります。</p> <p>以上、報告いたします。</p>
<p>会長</p>	<p>それでは5番のその他ということで、次回の開催予定についてお願いします。</p>
<p>事務局 (学校教育課長)</p>	<p>第3回目については、令和3年2月に設定をさせていただきたいと考えております。よろしくお願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>最後に何か意見等がありましたらお願いします。</p> <p>なければ閉会としたいと思います。</p> <p>それでは閉会の言葉を副会長がいたします。</p>

副会長	<p>まだまだ時間的に足りない部分があったことかと思いますが、これからの児童生徒の安心で安全な学校教育のためにということで貴重なご意見をいただきありがとうございました。</p> <p>それでは、第2回伊万里市立学校規模適正化協議会を閉会いたします。</p> <p>ありがとうございました。</p>
	<p>《閉会》</p>